



建築物総合環境計画概要書 新築

■使用評価マニュアル：CASBEE大阪みらい（新築） I使用評価ソフト：「CASBEE大阪みらい 新築」2024年版 (v.1.0.2)

1-1 建物概要		1-2 外観
建物名称	(仮称)此花区伝法6丁目マンション計画	
建設地	此花区伝法6丁目	
建物用途	共同住宅	
建築主	フジ住宅(株)	
設計者	不二建設(株)一級建築士事務所	
竣工年	2028年9月 予定	
構造/階数	RC造 / 地上14階	
敷地面積	3284.35 m ²	
建築面積	799.34 m ²	
延床面積	7601.96 m ²	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

B+
BEE = 1.4

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100). BEE=1.0 line. Target 1.4 is marked.

2-2 ホールライフカーボン (温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆ 60%: ★☆☆☆☆ 80%: ★☆☆☆☆ 100%: ★☆☆ 100%超: ☆

標準計算: 建設, 修繕・更新・解体, 運用, オンサイト, オフサイト

①参照値	100%
②建築物の取組み	57%
③上記+②以外のオンサイト手法	57%
④上記+オフサイト手法	57%

このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたWLC排出量の目安で示したものです。
④は参考として運用分をBEI+で表示しています。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境, Q2 サービス性能, Q3 室外環境 (敷地内), LR1 エネルギー, LR2 資源・マテリアル, LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.6

音環境	3.4
温熱環境	3.8
光・視環境	2.9
空気質環境	4.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

機能性	4.0
耐用性・信頼性	3.0
対応性・更新性	2.8

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 3.1

生物環境	2.0
まちなみ・景観	4.0
地域性・アメニティ	3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.8

建物外皮の熱負荷	4.0
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	4.2
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.9

水資源保護	3.4
非再生材料の使用削減	2.8
汚染物質回避	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

地球温暖化への配慮	4.7
地域環境への配慮	2.0
周辺環境への配慮	3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 前面道路から建物までの離隔を大きくすることで圧迫感を低減し、またその間に出来る限り緑地や広場を設けることで周辺環境に潤いをもたらすよう配慮した。		その他 特になし。
Q1 室内環境 F☆☆☆☆の内装建材を使用し、室内環境に配慮した。	Q2 サービス性能 耐用年数の長い配管を採用して、更新必要間隔が長くなるように努めた。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内 (特にエントランスまでのアプローチ部分) に緑地を積極的に多く計画し、CO ₂ 排出量の低減や歩道空間の温度上昇抑制に配慮した。また前面道路側に広場を設け、周辺地域のコミュニティに役立つよう計画した。
LR1 エネルギー LED照明などの効率的設備、高性能断熱材を採用することで省エネルギー化に配慮した。	LR2 資源・マテリアル 住戸室内間仕切壁等を木軸下地とすることで、躯体と仕上りが容易に分別できるよう部材の再利用に配慮した。	LR3 敷地外環境 前面道路側に広場を設けるなど敷地内に緑地を多く計画することで、舗装面を極力少なくし、温暖化や温熱環境悪化の改善となるよう配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

建築物環境性能表示 結果〔重点評価〕

総合評価BEE = 1.4

ラベル表示



環境性能		評価点
(1)CO2削減		5.0
CO2削減に配慮した環境性能		概要記入欄
LR3/ 1 / /	地球温暖化への配慮	4.7
配慮事項		

環境性能		評価点
(2)みどり・ヒートアイランド対策		2.0
みどり・ヒートアイランド対策に配慮した環境性能		概要記入欄
Q3 / 1 / /	生物環境の保全と創出	2.0
Q3 / 3 /3.2/	敷地内温熱環境の向上	2.0
LR3/ 2 /2.2/	温熱環境悪化の改善	1.0
配慮事項		

環境性能		評価点
(3)建物の断熱性		4.0
CO2削減に配慮した環境性能		概要記入欄
LR1/ 1 / /	建物の熱負荷抑制	4.0
配慮事項		

環境性能		評価点
(4)エネルギー削減		4.0
CO2削減に配慮した環境性能		概要記入欄
LR1/ 3 / /	設備システムの高効率化	4.2
配慮事項		

省エネルギー基準計算結果

基準適合状況	適合
--------	----

※ 外皮性能については、住宅部分が等級4（相当）以上、非住宅部分が1.0以下であること
※ 住宅部分の一次エネルギー消費量については、BEIが1.0以下であること
※ 非住宅部分の一次エネルギー消費量については、「建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令（以下、「省令」という）」第1条第1項第1号もしくは、省令第1条第1項第3号に掲げる基準以下であること。

外皮性能	住宅部分（品確法等級）	非住宅部分[BPI][BPI _m]
	等級5（相当）	-
一次エネルギー消費量	住宅部分[BEI]	非住宅部分[BEI][BEI _m]
	0.72	-